

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503924		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グルームホーム 澄川の丘 ほたる		
所在地	札幌市南区澄川6条7丁目1番1号		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503924-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グルームホーム澄川の丘はデイサービスセンター澄川の丘(通所介護)と併設しており、お互いの機能を活かしながら交流を深めています。現在は、5類に移行はしましたが、コロナの影響が大きく開催頻度は少なめですが、三味線、民謡、体操教室、ヴァイオリン&ピアノコンサートなどを例年通りに開催したいと考えています。近隣には、中学校があり朝夕の登下校には元気な子供たちの声がリビングまで聞こえてきます。夕方のクラブ活動での吹奏楽の音も聞こえ、心を豊かにしてくれます。

・お看取りについてです。最期まで「澄川の丘」を希望される方にはお看取りをさせて頂いております。積極的な治療はせずに、往診の先生と看護師、介護職員と連携し出来る限り痛み、苦しみを緩和しお看取りをさせて頂いております。

・ご利用者様の自主性、自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂きたい。この場所を「我が家、又はも1つの我が家」と思っていただけのようなグルームホームになるように努めています。

・働き方改革として、記録媒体を電子化し残業を減らし、会議、カンファレンスも業務内に行っている。有給休暇を取得できるように人員も増員している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	令和6年2月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

澄川の閑静な住宅街の一角に開設して18年目を迎えている。併設のデイサービス事業所や昨年隣地に新設された小規模多機能型事業所、住宅型有料ホームとともに地域福祉の一翼を担っている。事業所内では感染症対策の徹底の下、各事業所利用の人達と音楽会やドライブなどで交流を深めている。理念であるその人らしい豊かな生活は、自立支援のスタンスに立ち、利用者の日常で実践している。明るいフロアでは得意の裁縫に精を出し、調理を手伝う人、新聞や絵本を読む人など会話が弾み中、利用者はそれぞれの時間を過ごしている。職員は利用者の傍で関わり、紅葉狩りや小樽で寿司ランチ、イルミネーション見学など趣向を凝らした屋内、外の活動も多彩である。また、重度の人へのきめ細かなケアも特筆され、心地よく過ごせる環境を整え、入浴も体調が良ければ湯舟でゆったりと手足を伸ばしている。家族にはブログで生活のこまや研修場面等を発信し、良好関係を築いている。令和4年に導入したICT活用の記録方式が定着し、職員業務の負担軽減と、利用者一人ひとりの理解の深化や寄り添う時間増につながっている。職員は、利用者の伴走者として本人主体の支援に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、出勤時その理念を確認し一人一人理念のもと、実践できるように心掛けている。	利用者一人ひとりがその人らしい生活が営めるよう運営理念を基本に、ユニットそれぞれの理念を策定している。事業所内の掲示や毎日の唱和で共有し、その実践は会議や研修会、利用者サービスで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、大掃除や挨拶など行っているが、コロナ禍もあり地域での集いは無くなり十分とは言えない。	町内会活動は従前の状況に回復していないが、地域の動向は町内会長や回覧板から入手し職員が地域清掃に参加している。近隣とも良好な関係を維持しており、町内会班長や認知症相談を受けたりと地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高校生のボランティアの受け入れや、中学生の職業体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍において、受け入れができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナの影響により書面会議となっているが、昨年8月より通常通りの開催となっている。町内会長や、包括支援センター職員参加のもと取り組みや問題点等お伝えし、助言を頂いている。	会議は、コロナ禍を経て書面や参加型で継続している。推進委員の拡充に努め、運営に係る内容や利用者の状況、活動面、事故等については対策も明かに報告して。スライドで取り組み状況や日常生活を説明し、委員から意見を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や、今回もコロナに感染した職員や職員の家族がいた際など情報を共有し適切な指示を頂いている	平常時から行政担当者と良好な関係を築き、コロナ感染症対策でも適切な指示を得ている。介護認定や保護費関係では現状を交換し、利用者の生活の安定を支えている。包括支援センターとは地域高齢者の相談等でも相互に協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットより委員を選出し、定期的(3か月に1回)な委員会会議と、年2回の研修及び勉強会、新人研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束の適正化に向けた指針の下、委員会を実施している。気になる言動は役職者が注意し、定期的セルフチェック、研修や勉強会など話し合ことで職員に徹底し、拘束や抑圧感の無いサービスの実践に取り組んでいる。リスク予防のためのセンサーは利用者、家族の同意により使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、虐待についても研修や勉強会において学びの機会を設けており、業務にも結びついている。また、面談などを行い、決して虐待が起こることがないように指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すべての職員において、学びの機会を設けられていない。今後、施設内勉強会や、外部研修に参加できるように機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当者が対応し、入居契約時、私達に出来る事、出来ない事をお伝えし、納得していると理解しております。不安、疑問点も確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議において意見や要望を確認している。意見箱を玄関に設置し意見、要望があった際には全職員で周知し、カンファレンスや管理職会議にて解決している。	面会は、一部制限を設けているが状況により柔軟に対応している。ブログで日常の様子や研修場面を発信し、面会や定期の電話連絡などで意見を聞き取っている。利用者、家族から意見や要望の表出があれば職員間で話し合い、改善や実践につながるようになっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談やその都度、意見を聞く機会を設け職員の思いを汲み取り改善するように取り組んでいる。	職員は、行事担当や委員会活動で責任を持って業務に励んでいる。管理者は、定期や随時の面談、会議等で率直な意見を吸い上げ、エアコンの増設など環境の整備につなげている。資格取得のサポートや内・外部研修の充実でモチベーションの向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料等は高いと思わないが、希望休や、有給休暇の取得はできるように取り組んでいる。職場の環境において冷房の増設により改善された。記録媒体をICT化し、記録時間の短縮や情報共有等向上された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修が思うようにできなかったが、5類に移行後は、外部研修や、実践者研修などに参加している。、研修費交通費、研修も勤務扱いとし全て会社負担で参加できるように個々職員のスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、南区グループホーム連絡会などの参加を通じて情報交換を行い、互いの優れている点を取り入れてサービスの質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様・御家族様に認知症状や生活状況、生活歴、全身状態その方の想いを聞きアセスメントする。それを元に必要となるであろう支援方法等を、職員間でも情報共有する事で利用者様の尊厳を大切に、より良い信頼関係がスムーズに築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ここでの生活の説明・ホーム内見学を行い安心して利用していただける様、不安やホームで生活を営む上での御希望を伺っている。利用者様にとって安心で住みやすく、落ち着け終の棲家と思って頂ける様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時などに、その方に合った支援が行えるように、生活への不安や要望を聞き、それにできるだけ応える様検討・考慮し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族ではないが、家族の思いで共に暮らしています(ご支援させております)安心して暮らしていただけるように信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに近況、普段の生活の状況をお伝えし、把握して頂いている。また、これらの様子をブログにて中々面会に来られない方も日々の様子がわかるとの事で喜ばれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類に移行し、知人との面会や、葉書など人との関わりが途切れないように努めている。	家族や友人との面会や電話、賀状のやり取りを支援している。家族の協力で自宅帰宅や墓参、通い慣れた美容室に行く、また、職員と恒例の神社初詣や、顔馴染みの訪問理・美容など、関わり深い人との交流や場への外出も徐々に再開している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が常に把握し、必要に応じて介入することで、良好円滑な関係が築ける様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されてる方の多くは、ご近所の方で、道端でお会いした時には、職員や、入居者様の話をしたり関係性は継続されている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを汲み取り敬意をもって接している。意思疎通が難しい方にも、表情や、行動、これまでの生活歴を把握しご支援させて頂いている。	利用開始時に意向を把握し、その後は日常の中で思いや意向を受けとめている。困難な場合も、表情や仕草などから気持ちを察してケアをしたり、本人本位で物事を考え家族の情報も加えて、個別の介護計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族様から、生活歴やライフスタイル、趣味・嗜好などお聞きし、その人らしい生活が送れる様努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録媒体を、ICT化する事により、情報を一元管理することができ、職員間の情報共有も滞りなく行えることができた。現状把握をより努めることができています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様より意向を聞き、日常生活より本人の思いを汲み、取り月に1度のカンファレンスにて、現状に即した介護計画を作成している。	定期や状態の変化時に介護計画を見直し、利用者、家族の意向、さらに理念の実行を見据えて個別の計画を立案している。カンファレンスで状態の共有や気づきを集約し、詳細な情報記録から現状課題に即した支援目標を上げている。管理日誌で日々のサービス評価を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	紙媒体の記録様式より、スマホを活用した記録へ変更した。写真や動画を活用で、個人の様子がわかりやすくなった。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族構成や、家族内の関係性などその時、その状況に柔軟に対応できるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり地域の人や場を借りた取り組みは自粛していた。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の循環器内科医の往診と、昔より通われている病院にも通院できるよう、ご家族様の協力もいただきながら行っている。	医療は、2週ごとの訪問診療を全利用者が受けている。以前からの受診先や専門科は家族支援を主に事業所も対応し、受診結果は家族と共有している。配置看護師による健康管理や受診同行、医療連携で適切な医療受診が実現している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日頃から利用者様の健康状態の把握をし、往診に立ち会い、受診の同行など、常に相談できる環境になっている(医療連携)。また、夜間、休日においても異常があった際には連絡を取り対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院ができるように、入院先の担当者と状態を共有し、またムンテラにも同席させて頂き方向性についても検討をしている。また利用者様の環境の変化がないように早期に退院し通院でフォローできるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際重度化の指針は説明しており常時医療が必要な際はホームでの対応に限界があることもお伝えしている。また重度化した際はご家族様と話し合いをし利用者様にとってより良い環境で終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期のあり方について説明し、状態変化の経過で再度意向を聞いている。事業所での終末を希望する利用者、家族が多く、できない事を確認のうえ、家族と主治医や看護師と支援方針を共有し、利用者の伴走者として望む最期の時を見守っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しすぐ確認出来る場所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災避難訓練を実践すると共に消防への自動通報システム・スプリンクラー・セコムへの通報システムも設置している。又最近では自然災害が多く職員1人ひとりの意識改革も図っている。	年2回、夜間帯での地震後の火災発生を想定した自主避難訓練を実施している。自然災害時の対応確認や備蓄品の準備、停電対策に発電機を準備している。防災業者と提携し、併設や隣接の系列事業所と連携体制を整備している。	BCP(業務継続計画)を作成しており、今後は計画書に沿った訓練を予定している。さらに、入浴時や排泄介助時など日常場面を想定し、職員間で対応方法の検討や共有化を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳をもって接している。羞恥心やプライバシーにも配慮し支援を行っている。	今年度から接遇委員会を再開し、人格尊重に資するより適切な対応の意識啓発を進めている。日々の関わりは利用者にも視線を合わせてコミュニケーションを図り、申し送りでは個人が特定されない情報伝達に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを日頃の会話や表情から汲み取って希望に沿った暮らしができるように利用者様の顔を毎日きちんと見ていくように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様との時間が限られているが、その人らしい暮らしができるよう少しでも時間をとり支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問し散髪をされている。ホームでは身だしなみ以外にも化粧をされたりスカーフを巻いたりとおしゃれに対する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の補助や盛り付けなど行っている。食器洗いや、食器拭きなど座りながらでも出来る事があればお手伝いをしてきている。	メニューと食材は業者を利用し、食べやすい形態や彩り、味付けに配慮している。利用者は好きな事で食事作りに参加し、ホットケーキなどおやつ作りも楽しみの一つになっている。屋外でのバーベキューや外食ランチなどで満足感を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミを付けたり、刻みや介護食へその方が食べやすい形態へ変更している。ひとり一人に合った支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内状況により、口腔内ティッシュや、スポンジを用いて清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレで排泄ができるよう個々のタイミングを見測り誘導している。オムツを着用されている方にも、日中・夜間とオムツの種類を変え、不快な時間が長くならないように支援している。	トイレ排泄を基本に自立支援の下、個々の排泄状況に応じて誘導している。重度者はベッド上で二人介助の場合もあり、特に身体負担を考慮した清潔保持に努めている。入居後に、おむつから布下着に移行した人もいるが、その人の状態を注意深く見極め、適切な衛生用品を選択、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品やお通じに良い食べ物や飲み物を促したり、水分を多く摂れるよう心がけている。また体操や散歩を促し、負担のかからない程度に体を動かすよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お誘いしても拒否があったり、便汚染で急遽の入浴があったりと、ひとり一人の希望での入浴は十分とは言えない。ただ、入浴時はひとり一人ゆったりと入浴ができるように支援している。	週2回の入浴を支援し、排泄失敗時も速やかに対応している。同性介助の意向に応え、利用者に寄り添った言葉や誘導方法で気持ち良く入浴できるようにしている。リフトが設置され、重度化傾向の人も体調の良い時はゆったりと湯舟に浸かることができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見て、休息の声掛けをしている。夜間、不穏・不安時は傾聴、声掛けをし安心して眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬学管理指導を受け、新しい薬が処方された際には、体調に変化がないか十分注意している。また、内服間違いが無いように複数人でチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず、ゆったりと過ごしていただいている。やりたい事や、お手伝い等役割持ち、張り合いのある生活も送られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類に移行し、徐々に外出できるようになってきた。ファクトリーへイルミネーションを見たり、初詣や、小樽水族館などの外出や、ご自宅へ行かれたり感染対策をしながら、ご家族様の協力を頂きながら行えている。	家族と一緒に自宅や墓参に出掛ける人もおり、コロナ禍以前の外出に近づきつつある。季節の良い時期は、散歩や花壇の水遣り、テラスでの外気浴は日常的であり、行事的な外出も感染対策と利用者の状態を踏まえ、安全に楽しめる企画を工夫している。利用者は水族館やサーカス、イルミネーションを見物し、ドライブで桜や紅葉を堪能している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員が、施設での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話ができるようにしており、年賀状のやり取りやお手紙も届いている。携帯電話を使用している方もおられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い時間を過ごしていただけるように、温度、湿度、TVの音量などに配慮し、くつろげるように席の配置に気を付けている。また、共用部には四季を感じる装飾を心掛けている。自室に思い出の写真や絵などを飾られている。	共用空間は家庭的な雰囲気の設えであり、利用者が居心地よく過ごせるよう気になる刺激に配慮している。行事に合わせた装飾や利用者や制作した季節飾りで居場所感を大切に、ここでの生活が温かく豊かに感じられるよう視覚的な演出も取り入れている。日中も居間で過ごす利用者が多く、自由に寛ぐ中で会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性を考慮しリビングの席の配置を考えラウンジや和室を有効に活用し気の合った利用者様同士で過ごせるような工夫を行っている。居室でも過ごしやすい様に温度や湿度の環境の整備に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や写真、馴染みの家具を配置し絵画や手作りの作品などを置きご本人が居心地良くいられる空間作りの工夫をご本人様とご家族様と職員とで行っている。	居室には使い慣れた家具や日用品、大切な仏壇などが配置され、収納スペースも活用している。本人の作品や写真、趣味の道具も身近に置き、一人で書き物をしたりと、安心して過ごせる環境を作っている。室内整理や動線確保の検討は、本人や家族と相談して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、歩行器等福祉用具の使用や手すり、クッションフロアの設備など住環境を整えている。浴室にはリフトを設備し、安全・安心した入浴の提供に努めている。		